



田んぼの稲穂もほぼ刈り取りがすんだようです。今年もおいしいご飯を食べることができそうで楽しみです。太陽の恵みをしっかり受けて育ったご飯をおなか一杯食べ、「食欲の秋」を満喫したいものですね。

しつけの三原則

皆さんの中には、「子どもにどんなことをしつけとして身につけさせればいいのか」としつけについて悩んでおられる方も多いのではないのでしょうか。親として子どもへのしつけは子どもを育むうえで避けて通れない大切な仕事です。「学校でしつけをしてほしい」と思っている方もおられるようですが、基本的にはしつけは家庭で行うものなのです。

しつけは少し大げさな言い方をすれば、子どもが幸せになれるかどうか決まってくるものです。しつけを漢字で書くと「躰」と書きます。この漢字を分解してみると「“身”が“美”しい」となります。まさにしつけはその人を美しく見せる大切な要素なのです。ここでしつけについて考えてみましょう。

皆さんは、“森信三”という名前を聞かれたことがありますか。

明治時代、愛知県生まれ。神戸大学の教授であり、昭和の日本の哲学者、教育学者として活躍された方です。

その森さんが、「しつけの三原則」ということを言っておられます。その三原則とは、

- | |
|-----------------------------------|
| 一 朝のあいさつをする子に |
| 二 「ハイ」とはっきり返事のできる子に |
| 三 席を立ったら必ず椅子を入れ、はきものを脱いだら必ずそろえる子に |

皆さんのご家庭ではどうでしょうか？このことは大切なしつけですが、どちらかというとそのようなことを言う以上に「勉強をなさい!!」「宿題はもうしたの!!」などのような言葉がけの方が多いのではないのでしょうか。

上記の三つのしつけは、勉強にはあまり関わりがないように思われますが、決してそうではありません。この三つのことが身につけている子どもは、素直で明るく、落ち着いた行動ができるようになります。そして、このことが身につくことにより、人に好かれ、物事に真剣に取り組み、自分を律する子どもに育ちます。それにより勉強に自ら取り組むことができるようになるのです。

これを読まれた今日から、ぜひご家庭でこの「しつけ三原則」を実践してみられませんか。きっと子どもの姿が変わってきますよ。もう遅いよと言われる方もおられるかもしれませんが、まだまだ、しつけをするのに遅くはありません。

最後にもう二つほど、森さんの言葉を紹介します。

・・・われわれ人間にとって一番大切なことは何？と尋ねられ、

○ 一度思い立ったら石にしがみついても必ずやり抜く人間に

○ ホンのわずかな事でもよいから、とにかく他人のために尽くす人間になること・・・と答えられています。本当に考えさせられる言葉ですね。